

(様式 1 - 1 申請書)

5 川 政 第 62 号

令和5年4月19日

内閣総理大臣 殿

川俣町長 藤原一二

地域魅力向上・発信事業計画の提出について

福島再生加速化交付金（福島定住等緊急支援（地域魅力向上・発信支援））  
実施要綱第4の2の規定に基づき、地域魅力向上・発信事業計画（令和5年  
度）を提出します。

情報発信等戦略の期間	
令和3年度～令和7年度	
情報発信等戦略	
<p>① 情報発信の内容 川俣町の「食」や「健康」について正確な情報を発信し理解を得るとともに、本町の豊かな自然や歴史、文化、体験アクティビティなど魅力を発信しイメージ向上を図る。</p>	
<p>② 川俣町の情報発信体制</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・川俣町公式ホームページや公式SNS (Facebook、Twitter、LINE)、広報誌等による発信</li><li>・地元メディアと協力・連携した発信</li><li>・国や福島県、周辺自治体とイベント等の情報を共有し、連携しながら風評払拭に対する情報発信</li></ul>	
<p>③ 情報発信等の戦略目標</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国内外に対して、川俣町産の農産物の安全性、健康への影響等について正確な情報を発信して、原発事故による放射能等の風評払拭を図るとともに、「自然」「歴史」「文化」等の魅力についての情報を発信することにより本町のイメージ向上を図る。</li></ul>	
<p>④ 全体工程表</p>	

(様式1-3)

308 川俣町 地域魅力向上・発信事業計画 令和3年度～令和7年度

平成35年4月19日時点

(単位：千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	事業 実施 主体	各年度の交付対象事業費(注3)					総交付対象事業費	全体事業 期間 (注4)	備考  その他(注5)
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
1	A - 1	川俣町地域情報発信事業	川俣町	(1,373) 0 <1,373>					(1,373) 0 <1,373>	R3 ~ R3	
2	A - 2	川俣町地域情報発信事業(かわまた里山ツーリズム)	川俣町	(0) 0 <0>	(26,919) 0 <26,919>	(39,696) 0 <39,696>		39,696 39,696 <39,696>	(66,615) 79,392 <146,007>	R4 ~ R7	
3	A - 3	首都圏等における川俣町の地域魅力情報発信事業	川俣町	(0) 0 <0>	(1,187) 0 <1,187>	(4,298) 0 <4,298>		4,298 4,298 <4,298>	(5,485) 8,596 <14,081>	R4 ~ R7	
4	A - 4	川俣町地域情報発信事業(サイクルロゲイニング)	川俣町	(0) 0 <0>	(0) 0 <0>	(0) 6,000 <6,000>		6,000 6,000 <6,000>	(0) 18,000 <18,000>	R5 ~ R7	
5	-							(0) 0 <0>		~	
合 計				(1,373) 0 <1,373>	(28,106) 0 <28,106>	(43,994) 6,000 <49,994>	(0) 49,994 <49,994>	(0) 49,994 <49,994>	(73,473) 105,988 <179,461>		

(注1) 「事業番号」は、「(交付要綱別添1の番号) - (同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」となるよう記載する。

(注2) 「事業名」は実施する事業の内容がわかるように任意の名称を記載する。

(注3) 「各年度の交付対象事業費」は、上段( )書きは前回までに配分された額を記載し、中段には今回申請する額を記載する。なお、下段< >書き及び総交付対象事業費については、自動計算される。

(注4) 「全体事業期間」は、令和3年度以降に実施することが見込まれる事業については、令和3年度以降も含めて記載する。

(注5) 事業間流用を行った場合には、「備考」の「その他」に事業間流用を行った旨、その時期及び額を記載する。なお事業間流用を行う場合には、流用する(流用される)事業名も合わせて記載する。

(様式1-4)

308 川俣町 地域魅力向上・発信事業計画

令和5年度

平成35年4月19日時点

(単位：千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	事業 実施 主体	国費率 (a)	当該年度		備 考
					交付対象事業費 (b) (注3)	うち交付金交付額 (c) =a×b	
1	A - 2	川俣町地域情報発信事業 (かわまた里山ツーリズム)	川俣町	1/2	(39,696)	(19,848)	
					0	0	
					<39,696>	<19,848>	
2	A - 3	首都圏等における川俣町の地域魅力情報発信事業	川俣町	1/2	(4,298)	(2,149)	
					0	0	
					<4,298>	<2,149>	
3	A - 4	川俣町地域情報発信事業 (サイクルロゲイニング)	川俣町	1/2	(0)	(0)	
					6,000	3,000	
					<6,000>	<3,000>	
4	-					(0)	
						0	
					<0>	<0>	
5	-					(0)	
						0	
					<0>	<0>	
合計額					(43,994)	(21,997)	
					6,000	3,000	
					<49,994>	<24,997>	

(注1) 「事業番号」は、「(交付要綱別添1の番号) - (同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」となるよう記載する。

(注2) 「事業名」は、実施する事業の内容がわかるように任意の名称を記載する。

(注3) 上段 ( ) 書きは、前回までに配分された額を記載し、中段には今回申請する額を記載する。なお、下段 < > 書きについては、自動計算される。

(様式 1-5)

自治体名 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和5年4月19日時点

※本様式は1-3, 1-4に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	4	事業名	川俣町地域情報発信事業 (川俣サイクルロゲイニング)	事業番号	A-4
事業実施主体	川俣町	総交付対象事業費	6,000 千円		
既配分額	0 千円	当該年度交付対象事業費	6,000 千円		
経費区分ごとの費用					
一 地域の魅力向上・発信事業①情報					
① 情報発信事業 小計 6,000 千円					
i) 風評動向調査 千円					
ii) 体験等企画実施 4,104 千円					
iii) 情報発信コンテンツ作成 928 千円					
iv) ポータルサイト構築 968 千円					
②外部人材活用 小計 千円					
i) 企画立案のための外部人材の活用 千円					
ii) 地域の語り部の育成 千円					
二 関連施設の改修					
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修 千円					
風評の払拭に関する目標					
令和8年度の観光入込客数 320,000 人 ※ 震災前 (平成22年度) 311,360 人					
事業概要					
事業実施主体	川俣町				
主な企画内容	・コースの地図に設置されたチェックポイントを、制限時間内に自転車を使い、できるだけ多くまわって、得点を競う「サイクルロゲイニング大会」を通じて川俣町の魅力を発信する。				
主な事業の実施場所	川俣町内全域				
事業の実施期間	令和5年度～令和7年度				
企画内容					
【現状・課題】					
<現状>					
・川俣町は除染や食品検査を通じて、安全に過ごせる町となっている。					
・東日本大震災による原子力災害により、震災直後は川俣町を訪れる観光客入込客数は減少、一時期は盛り返してきたものの、近年では復興への関心が薄れるとともに減少傾向にある。					
・本町では震災以降、モニタリングポストの設置、自家用農産物等放射性物質検査、内部被ばく検査などにより、放射線等の正確な情報発信に努めてきた。					
・原発事故に係る放射線の風評払拭については、これまでの取り組みにより一定の成果を上げているものの、いまだに風評の影響による観光業の不振等が続いている。					
・令和5年度中にALPS処理水が海洋放出されることにより、更なる風評が生じることが懸念される。					
<課題>					
・川俣町の魅力ある地域資源について、首都圏等の方々に対して効果的に届けるためには、川俣町に足を運んでもらうことが最も確実な方法である。					
・原子力災害に伴う除染、食品検査の取組による成果、川俣町の地域資源が有する魅力等について、ホームページなどを通じて発信しているものの、こうした一般的な方法だけでは十分に伝わっていない。					

- ・令和5年度中には ALPS 処理水の海洋放出が予定されており、原子力災害の影響が大きかった本町でも更なる風評が発生し、首都圏等からの誘客が一層困難となることが強く懸念される。

#### 【課題に対するこれまでの取組と成果】

- ・町内の環境放射線量測定結果や食品等放射性物質検査等を、町公式 HP や町発行の情報誌（放射線モニタリングニュース）により情報発信
- ・年2回の川俣シャモまつりの開催（川俣町、福島市）
- ・近畿大学との連携による様々な復興への支援「“オール近大”川俣町復興支援プロジェクト」（ポリエステル媒地を活用したアンズリウム栽培や、地域へのフィールドワーク、新しい特産品の開発、川俣シャモのレシピコンテストなど）
- ・川俣シャモ GI（地理的表示）取得

#### 【今年度事業における具体的な取組内容】

川俣町サイクルロゲイニング大会の開催

【日時】令和5年11月の日曜日の1日間

【場所】川俣町全域

【募集人数】100名

【ターゲット層】福島県外に対し募集及びプロモーションを行う。

【実施体制】委託事業者、近畿大学、関連団体

【情報発信】委託事業者による広報活動、キャンペーンサイト、SNS（Instagram、Facebook 広告）を利用して発信

【概算費用】6,000,000円

#### 【事業内容】

- ・風評払拭、リスクコミュニケーション強化戦略の「知ってもらおう」、「食べてもらおう」、「来てもらおう」の3つすべてに関する内容である。
- ・募集についてはキャンペーンサイトを作成し、日本全国で開催されるスポーツイベントにエントリーできるサイト（スポーツエントリーなど）を活用し周知を行う。さらに SNS による広告を首都圏向けに発信し、大会の周知を図り、募集を行う。
- ・チラシの配布については首都圏内の自転車専門店、スポーツ用品店に送付し行う。
- ・自家用車のない首都圏の方でも参加できるように、先着順で大会参加ツアーを組み、首都圏からの参加を促す。
- ・サイクルロゲイニング大会の企画の際は、川俣町内全域にチェックポイントを設ける。その場所に行くことで獲得できるチェックポイントとして、例として川俣町における観光名所、商店、アンズリウムのハウス、モニタリングポストを指定し、川俣町の観光資源の活用及び、川俣町においての現状を知っていただく。
- ・体験することで獲得できるポイントについては、例として町の飲食店での購買、飲食、乗馬体験、アンズリウムのアレンジメント体験、食品検査場での検査体験、エイドステーションでの放射線に関する学習体験などを指定し、実際に川俣町の現状を知ってもらい、食べてもらおう。
- ・近畿大学の協力を得て、チェックポイントの制定、エイドステーションの企画、運営を行う。
- ・大会の参加条件として、参加者は各個人の SNS からハッシュタグを付けて発信することを必須とし、インセンティブとして、大会の様子を撮影した写真等を発信することによるボーナスポイントも設定する。
- ・大会開催の際はサイクリング愛好者に知名度が高いユーチューバーをゲストライダーとして招へいし、合わせて動画の製作を依頼する。
- ・大会終了後は、ユーチューバーの動画を中心に、SNS を活用した情報発信を行う。

#### 【今年度事業における目標】

##### 【アウトプット】

- ・サイクルロゲイニング大会

##### 【アウトカム】

- ・大会後のアンケートで「もう一度川俣町を訪れたい」と答える人の割合 80%以上
- ・大会 YouTube 動画再生回数 3,000 回以上

**【今年度、事業の実施により得られる効果】**

- ・川俣町の安全に係る現状、川俣町が有する地域資源を活かした魅力等について、「知ってもらおう」、「食べてもらおう」、「来てもらおう」ことで風評に惑わされないようになってもらう。
- ・これからの ALPS 処理水の海洋放出により、福島県全体が風評被害にあうと懸念されるため、風評に惑わされない方々を増やしていくとともに、その方々からの連鎖的な情報発信により、行政からの情報発信とは別の切り口により風評の払拭につなげていく。
- ・川俣町認知度の向上。
- ・SNS を活用した情報発信により、農産物等のモニタリング検査結果の正しい情報、生産過程及び商品に対する取り組み等を伝えることで、川俣町の食の安全・美味しさ・地域の魅力を広く発信することができる。
- ・川俣町産の野菜はすべて食品検査を実施しており、機器で測定できるレベルの放射線は検出されていない事を知ってもらおう、味わってもらおうことで、食の安全性と町の魅力の情報発信につながる。

**【次年度以降の取組】**

- ・アンケート結果による、新たな学習、体験ポイントの設置
- ・親子、学生などターゲットを変更する。